

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立和霊小学校

1 自己評価書

教育目標	豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く和霊の子の育成					
基本方針	和霊教育の歴史と伝統を受け継ぎ、地域に開かれた特色ある教育を推進し、社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、心身ともに健やかで、主体性と実践力と郷土愛を身に付けた児童の育成に努める。					
本年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知的好奇心を高める学びの場や地域での多様な体験を通して、主体的に学び、社会に対応できる確かな学力を身に付けた児童を育てる。 ○ 全教育活動の中で、生命尊重や思いやりの心、郷土を愛する心を育てる。 ○ 基本的な生活習慣の定着と自分の命は自分で守ることのできる態度を育てる。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期のみ
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
				・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A	A
				・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C A	B
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B	C
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A B	B
	(成果と課題)					
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習については、昨年度後期より向上しているが、学力向上推進計画の目標には到達できていない。 ○ 読書については、昨年度後期より評価が下がり、活字離れが深刻な状況である。 ○ 地域に対する誇りや愛着については、年々向上している。 					
	(改善策等)					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に家庭でのタブレットを使用した学習を行う。 ○ 読書については、図書委員会による読み聞かせ活動を継続し、新たな啓発活動を考えたい。 ○ 学校運営協議会委員とにぎたまサポーターとの交流活動を活性化する。 						

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	A	
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	A		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	B	
	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A	
			・児童生徒アンケート	A		
			・保護者アンケート	B		
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	B	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	A	A
・児童アンケート				B		
自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A		
			・児童アンケート	A		
(成果と課題)						
<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な不登校児童が在籍しているため、様々な関係機関と連携して対応にあたっている。 ○ 児童は規範意識について自己評価が高いが、校内外を問わず高まっているとは言えない。 ○ 自己肯定感や自己有用感については年々向上している。 						
(改善策等)						
<ul style="list-style-type: none"> ○ 不登校については、タブレットを利用した学習を進め、学力の保障をする。(特に保健室登校の児童) ○ 基本的な生活習慣の基礎となる挨拶について、全校で足並みを揃えて指導する。 						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート	C	C	
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B		
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
				休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	
	③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
(成果と課題)						
<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間外の勤務は全体的に減少しているが、時期的に多くなったり、教職員に偏りがあったりする。 ○ 新しいメンバーでスタートしたが、職員室の雰囲気は相変わらず良好で、相談しやすい職員室である。 ○ 休業日に出勤している教職員が多い。 						
(改善策等)						
<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期に退職者が出て、教職員個々の負担が増加したため、根本的な改善は難しいが、負担の偏りを少なくする。 ○ 様々な職員の職務を共通理解し、全ての教職員がサポートを受けやすい体制を作る。 						

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	B	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート	B	
	③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
(成果と課題) ○ 学校の課題を学校運営協議会で明らかにし、熟議によって取組を考え、実行できるよう計画している。また、学校運営協議会委員と児童との交流を考えている。 ○ 昨年度と比較すると、ホームページの更新が減り、学年によって偏りがある。					
(改善策等) ○ 全職員が、全5回の学校運営協議会に参加し、地域との交流を図るとともに、協力体制を構築する。 ○ 情報教育主任を中心に、様々なアイデアを募集し、無理のない範囲でのホームページを更新を目指す。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満